

8 救急車利用について

8-1 119番通報の利用経験

◎ 「ある」が44.3%

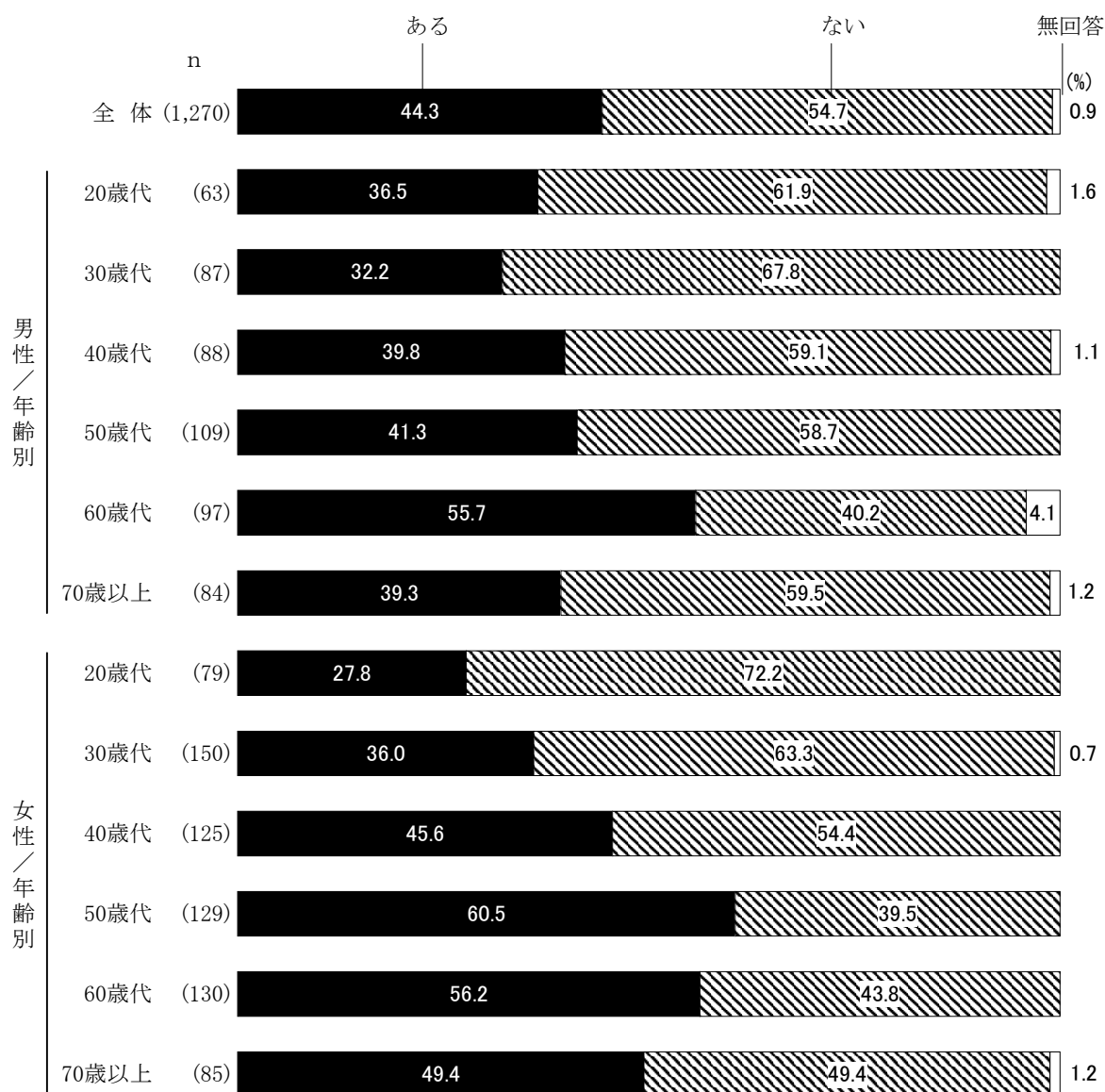
問 21 あなたは、今までに、119番通報して救急車を呼んだことがありますか。(○は1つ)

図表 8-1 119番通報の利用経験



119番通報の利用経験は、「ある」人が44.3%、「ない」人が54.7%となっている。(図表 8-1)

図表8-2 119番通報の利用経験(性/年齢別)



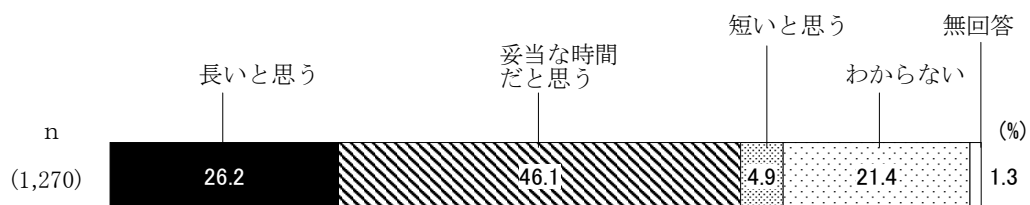
性/年齢別では、「ある」は女性の50歳代で6割、男女の60歳代で半数を超えている。一方、「ない」は女性の20歳代で7割、男性の30歳代でも7割に近い。(図表8-2)

8-2 救急車の平均到着時間について

◎ 「妥当な時間だと思う」が46.1%、「長いと思う」が26.2%

問22 川崎市の救急車の平均到着時間は6分40秒ですが、この時間についてどう思いますか。
(○は1つ)

図表8-3 救急車の平均到着時間について



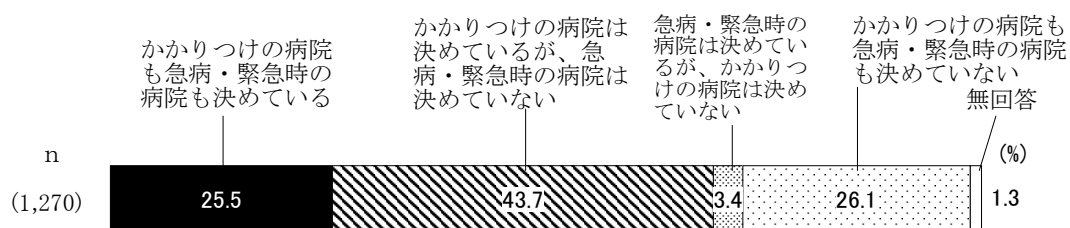
救急車の平均到着時間は、「長いと思う」が26.2%、一方「短いと思う」は4.9%となっている。また、「妥当な時間だと思う」は46.1%となっている。(図表8-3)

8-3 かかりつけの病院、急病・緊急時の病院の有無

◎ 「かかりつけの病院も急病・緊急時の病院も決めている」が25.5%

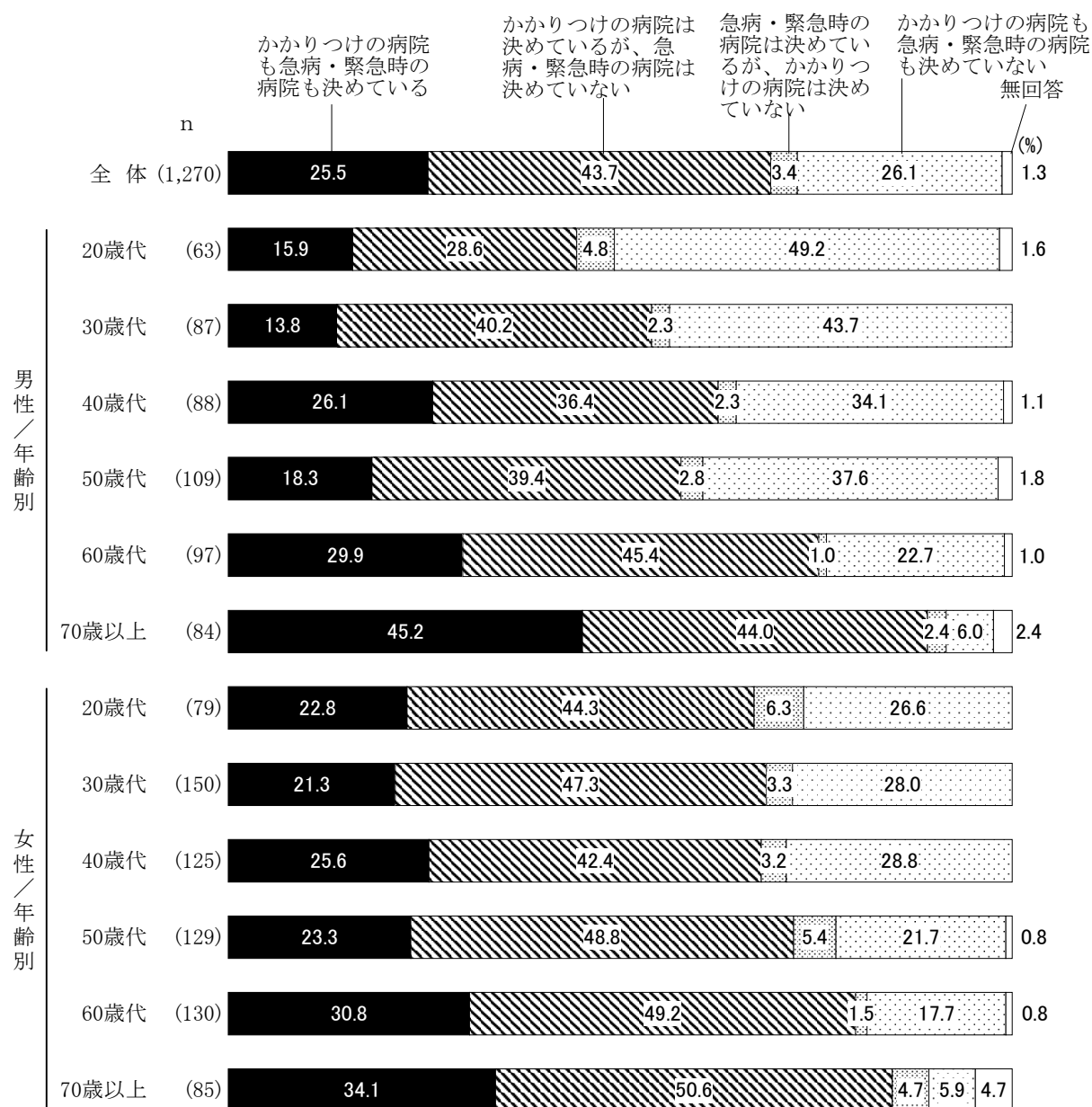
問 23 あなたは、普段、かかりつけの病院や急病・緊急時の病院を決めていますか。(○は1つ)

図表 8-4 かかりつけの病院、急病・緊急時の病院の有無



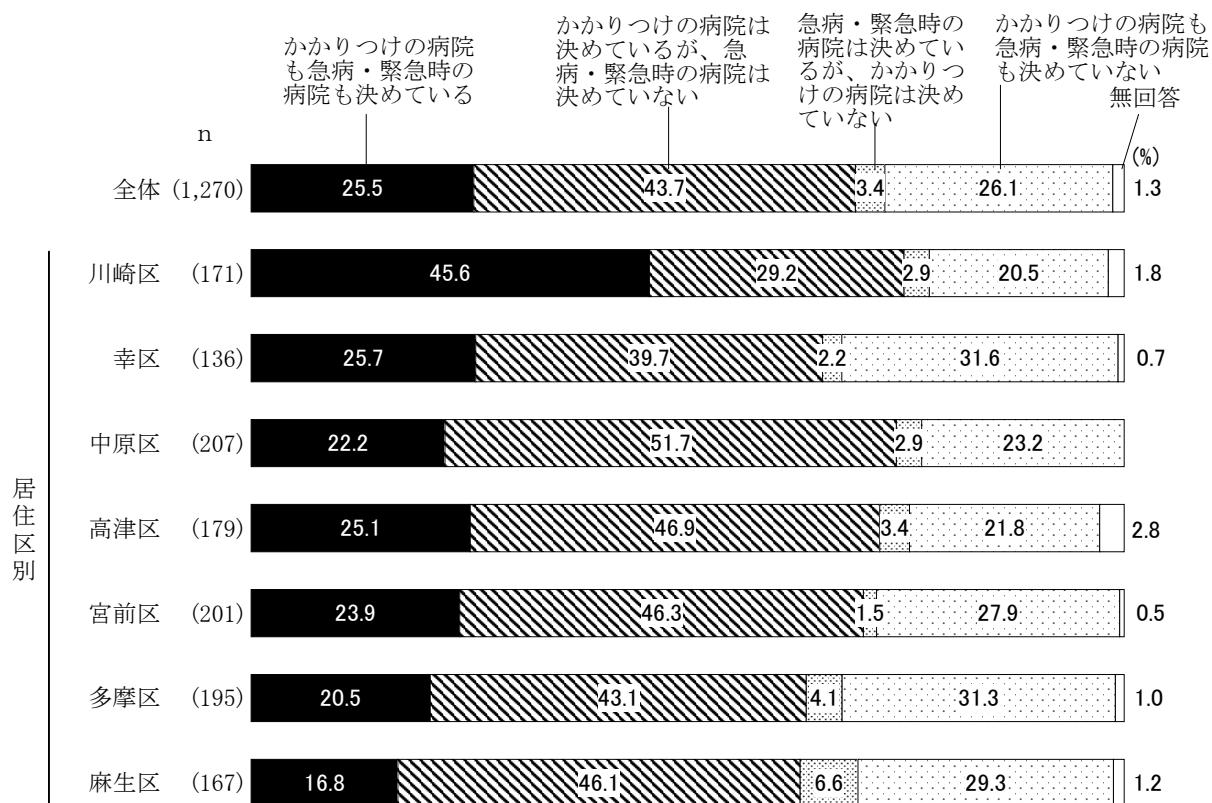
かかりつけの病院、急病・緊急時の病院の有無は、「かかりつけの病院も急病・緊急時の病院も決めている」が25.5%、『かかりつけの病院』を決めている人が69.2%、『急病・緊急時の病院』を決めている人が28.9%となっている。また、「かかりつけの病院も急病・緊急時の病院も決めている」人は26.1%となっている。(図表8-4)

図表 8－5 かかりつけの病院、急病・緊急時の病院の有無（性／年齢別）



性／年齢別では、「かかりつけの病院も急病・緊急時の病院も決めている」は男性の70歳以上で4割台半ばと最も多くなっている。また、『かかりつけの病院』を決めている人は男性よりも女性の方が全体的に多い。一方、「かかりつけの病院も急病・緊急時の病院も決めている」は男性の20歳代で半数近くと最も多くなっている。(図表8－5)

図表 8－6 かかりつけの病院、急病・緊急時の病院の有無（居住区別）



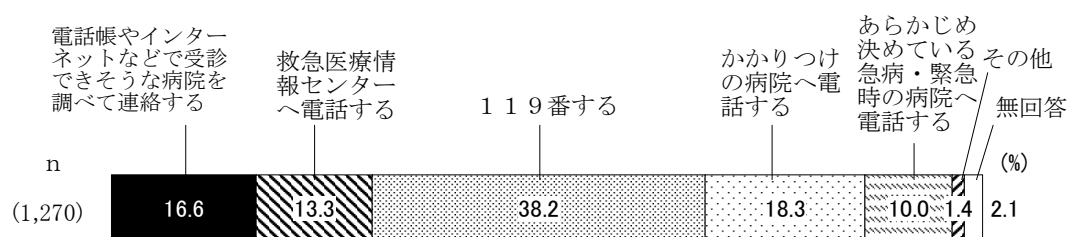
居住区別では、「かかりつけの病院も急病・緊急時の病院も決めている」は川崎区で4割台半ばと突出して多くなっている。一方、「かかりつけの病院も急病・緊急時の病院も決めていない」は幸区と多摩区で3割を超えている。(図表 8－6)

8-4 急病・緊急時の病院の利用方法

- ◎ 「電話帳やインターネットなどで受診できそうな病院を調べて連絡する」と「救急医療情報センターへ電話する」があわせて3割、「119番する」が4割弱、「かかりつけの病院へ電話する」と「急病・緊急時の病院へ電話する人」で3割

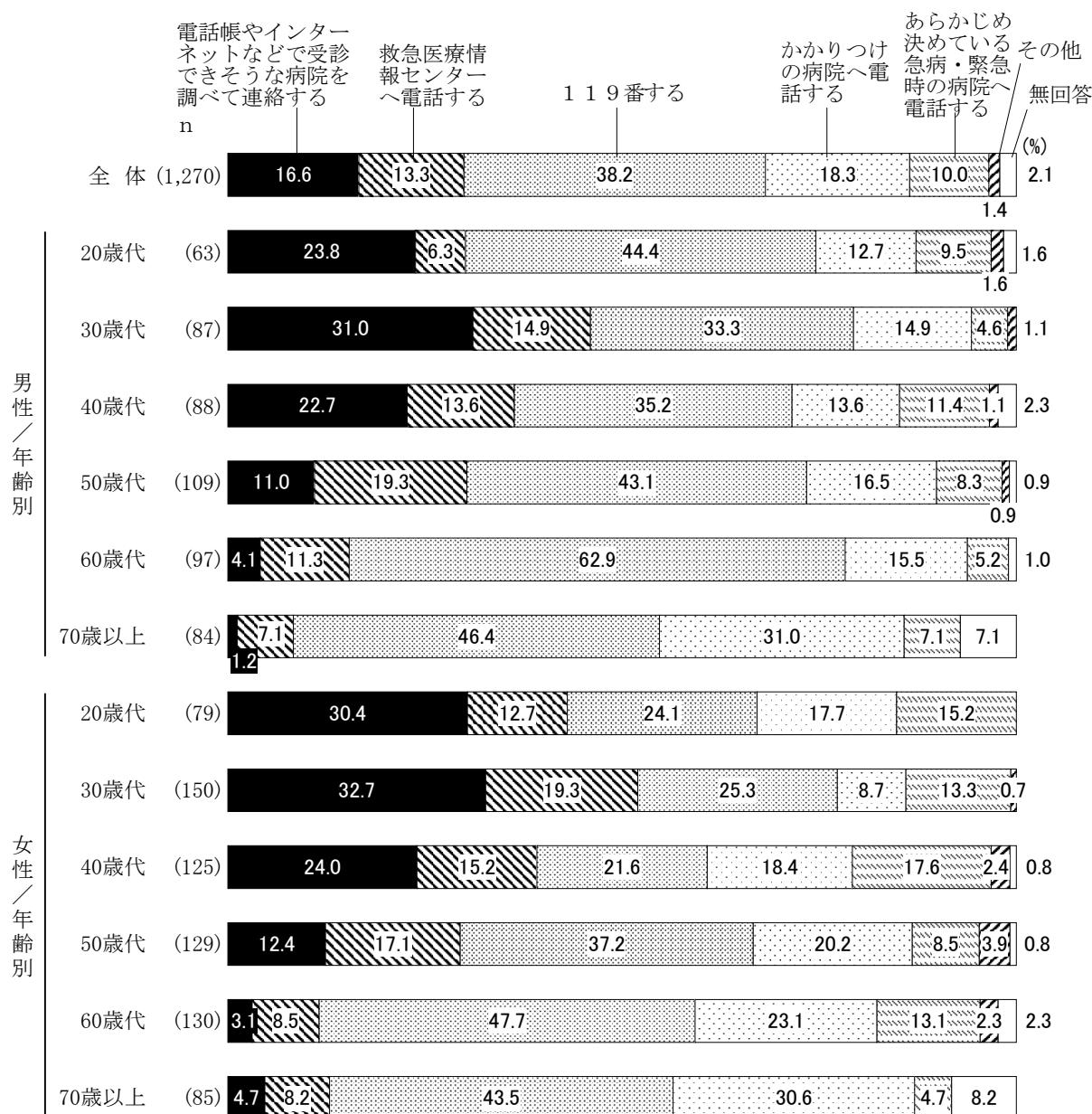
問 24 あなたは、急病・緊急時、病院に受診したい場合、最初にどうしますか。（○は1つ）

図表 8-7 急病・緊急時の病院の利用方法



急病・緊急時の病院の利用方法は、「電話帳やインターネットなどで受診できそうな病院を調べて連絡する」(16.6%)と「救急医療情報センターへ電話する」(13.3%)があわせて29.9%、「119番する」が38.2%、「かかりつけの病院へ電話する」(18.3%)や「急病・緊急時の病院へ電話する人」(10.0%)があわせて28.3%となっている。(図表8-7)

図表 8－8 急病・緊急時の病院の利用方法（性／年齢別）



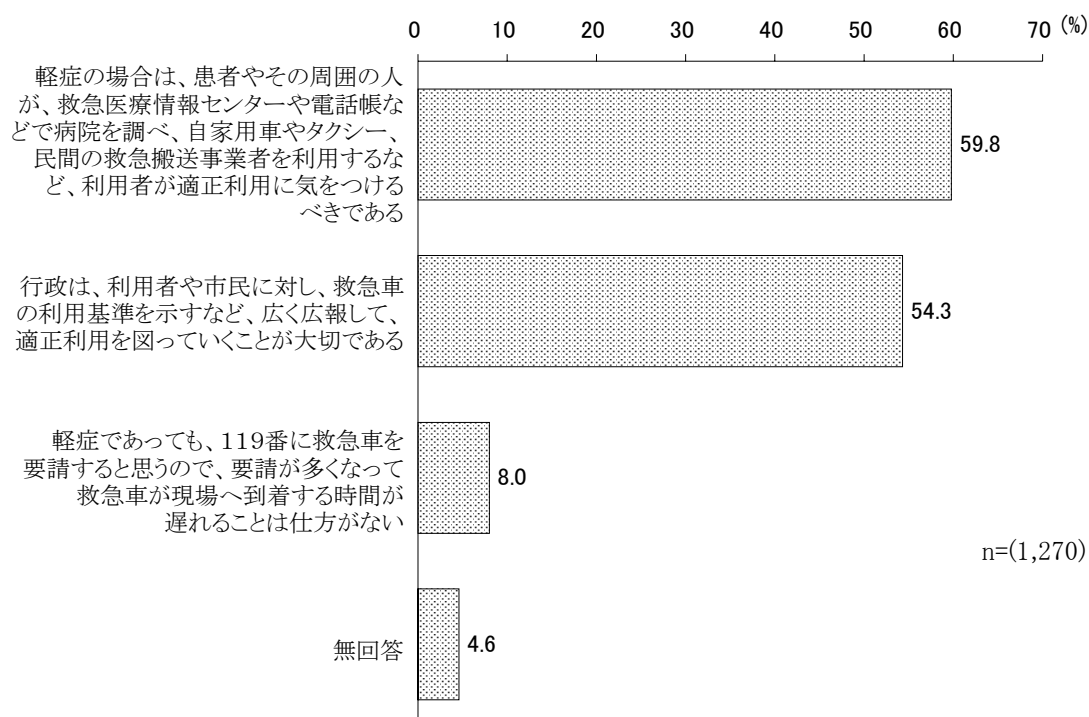
性／年齢別では、「電話帳やインターネットなどで受診できそうな病院を調べて連絡する」は男女ともに概ね 20 歳代から 40 歳代で多く、年齢が高くなるにつれて少なくなる傾向がみられる。「119 番する」は男女ともに 60 歳代で最も多く、男性で 6 割を超えている。「かかりつけの病院へ電話する」は男女ともに 70 歳以上で 3 割を超えている。(図表 8－8)

8-5 救急車の適正利用について

- ◎ 「軽症の場合は、患者やその周囲の人が、救急医療情報センターや電話帳などで病院を調べ、自家用車やタクシー、民間の救急搬送事業者を利用するなど、利用者が適正利用に気をつけるべきである」が59.8%

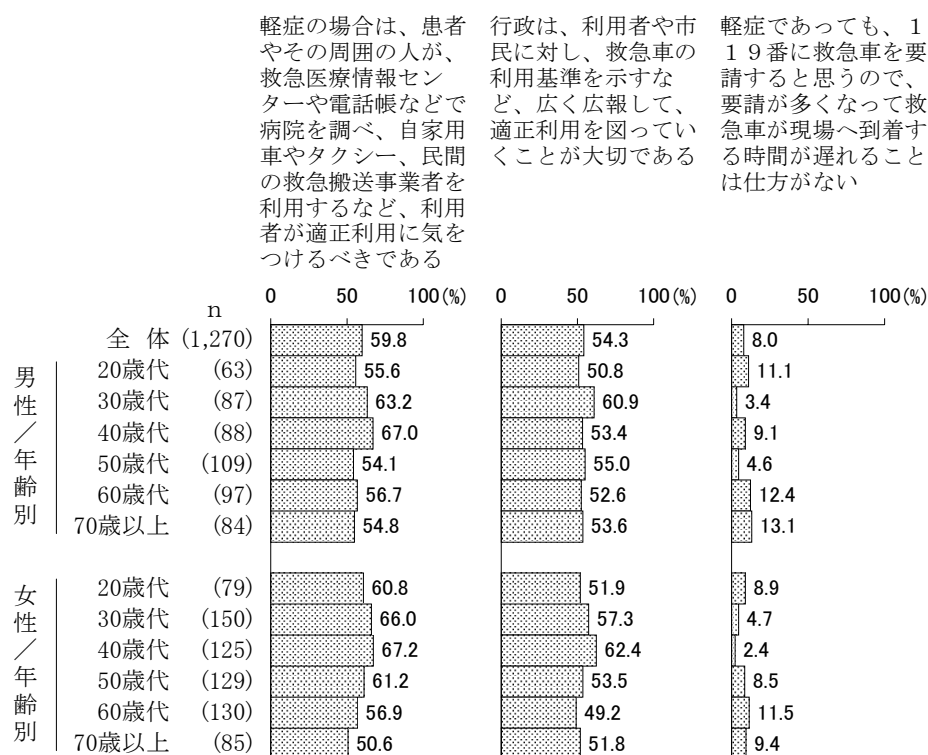
問 25 救急業務は、法令上、「災害や事故によるけが、または生命に危険を及ぼしたり著しく悪化するような病気で、緊急に病院へ搬送する必要のある方」を対象としています。救急車で搬送された方のうち、軽症の方が約6割を占めている現状から、あなたは、救急車の適正利用について、どう思いますか。（あてはまるものすべてに○）

図表 8-9 救急車の適正利用について



救急車の適正利用は、「軽症の場合は、患者やその周囲の人が、救急医療情報センターや電話帳などで病院を調べ、自家用車やタクシー、民間の救急搬送事業者を利用するなど、利用者が適正利用に気をつけるべきである」が59.8%で最も多い。次いで、「行政は、利用者や市民に対し、救急車の利用基準を示すなど、広く広報して、適正利用を図っていくことが大切である」(54.3%)が半数を超えている。(図表8-9)

図表 8-10 救急車の適正利用について（性／年齢別）



性／年齢別では、「軽症の場合は、患者やその周囲の人が、救急医療情報センターや電話帳などで病院を調べ、自家用車やタクシー、民間の救急搬送事業者を利用するなど、利用者が適正利用に気をつけるべきである」は男性の40歳代、女性の30歳代から40歳代で6割台半ばとなっている。「行政は、利用者や市民に対し、救急車の利用基準を示すなど、広く広報して、適正利用を図っていくことが大切である」は男性の30歳代と女性の40歳代で6割を超えている。（図表8-10）

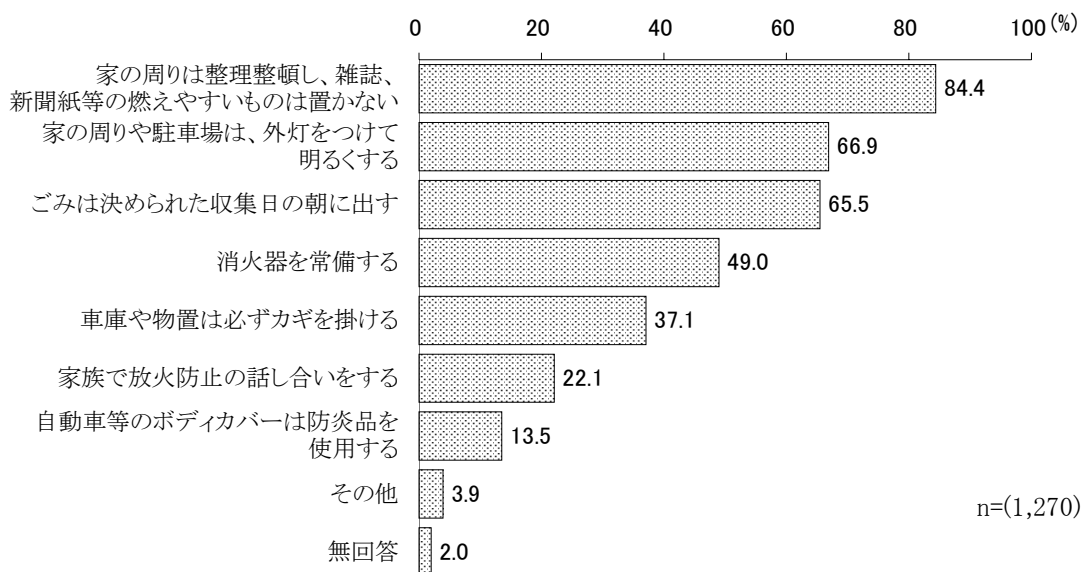
9 火災予防について

9-1 放火防止対策

◎ 「家の周りは整理整頓し、雑誌、新聞紙等の燃えやすいものは置かない」が84.4%

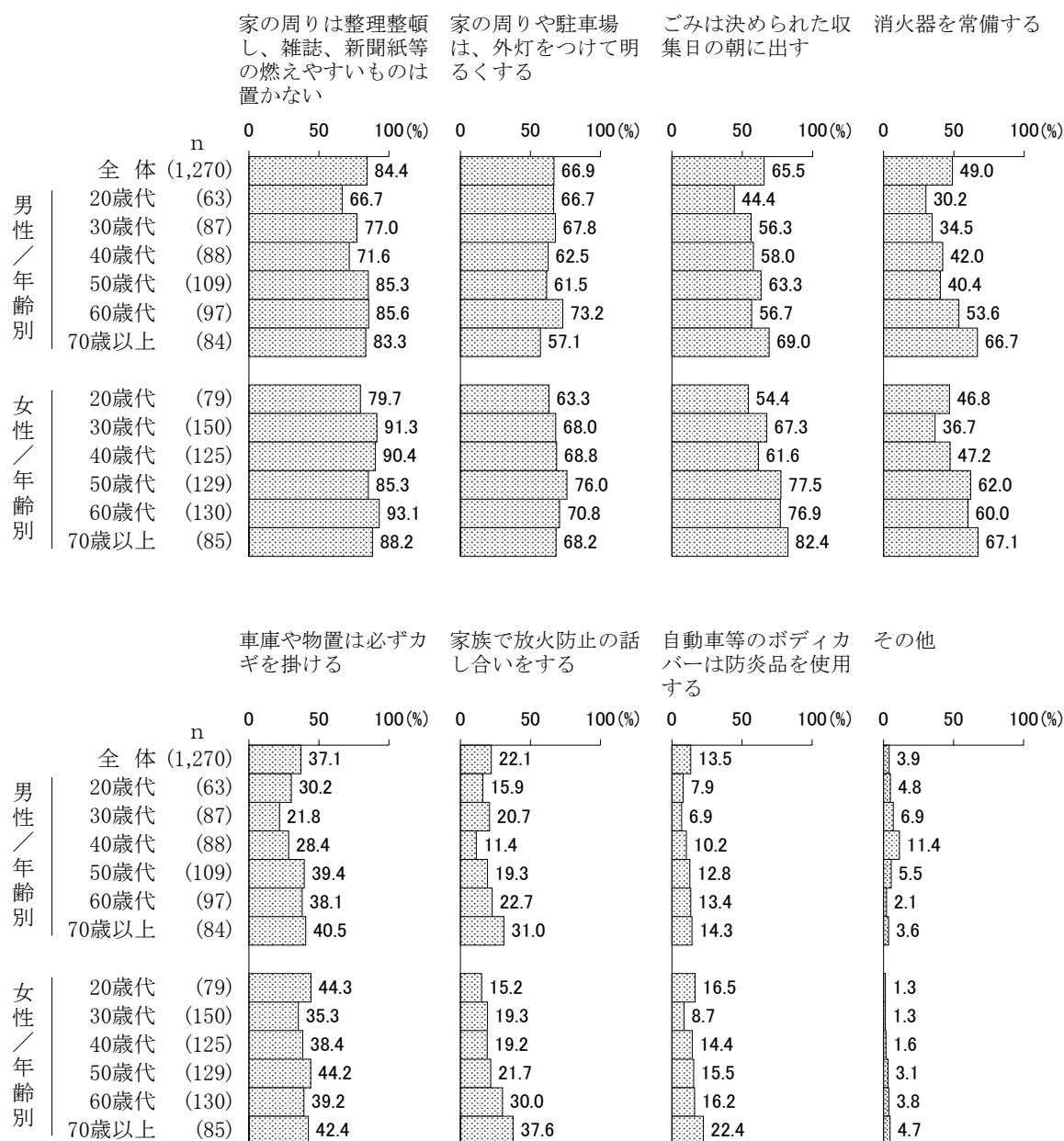
問 26 火災の発生原因は、放火が昭和 51 年から第 1 位ですが、あなたは放火防止対策で何が大切だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

図表 9-1 放火防止対策



放火防止対策は、「家の周りは整理整頓し、雑誌、新聞紙等の燃えやすいものは置かない」（84.4%）が最も多い。次いで「家の周りや駐車場は、外灯をつけて明るくする」（66.9%）、「ごみは決められた収集日の朝に出す」（65.5%）が6割台、「消火器を常備する」（49.0%）が半数近くで続いている。（図表 9-1）

図表9-2 放火防止対策（性／年齢別）



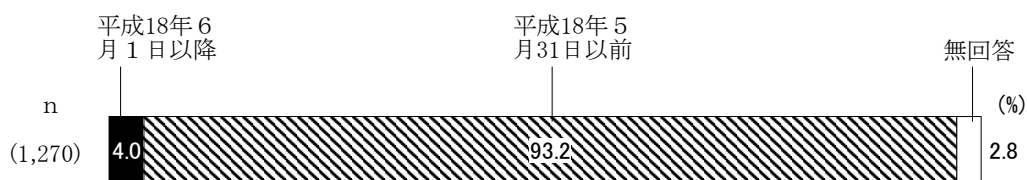
性／年齢別では、「家の周りは整理整頓し、雑誌、新聞紙等の燃えやすいものは置かない」は男性よりも女性の方が割合が多い。「家の周りや駐車場は、外灯をつけて明るくする」は男性の60歳代、女性の50歳代で7割台半ばとなっている。「ごみは決められた収集日の朝に出す」、「消火器を常備する」、「家族で放火防止の話し合いをする」は男女ともに70歳以上で最も多くなっている。(図表9-2)

9-2 住宅の建築時期

◎ 「平成18年5月31日以前」が93.2%

問27 あなたがお住まいの住宅の建築年月日は次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

図表9-3 住宅の建築時期



住宅の建築時期は、「平成18年5月31日以前」が93.2%を占めており、「平成18年6月1日以降」は4.0%となっている。(図表9-3)

9-3 住宅用火災警報器の設置義務化の認知状況

◎ 「知らない」が69.4%

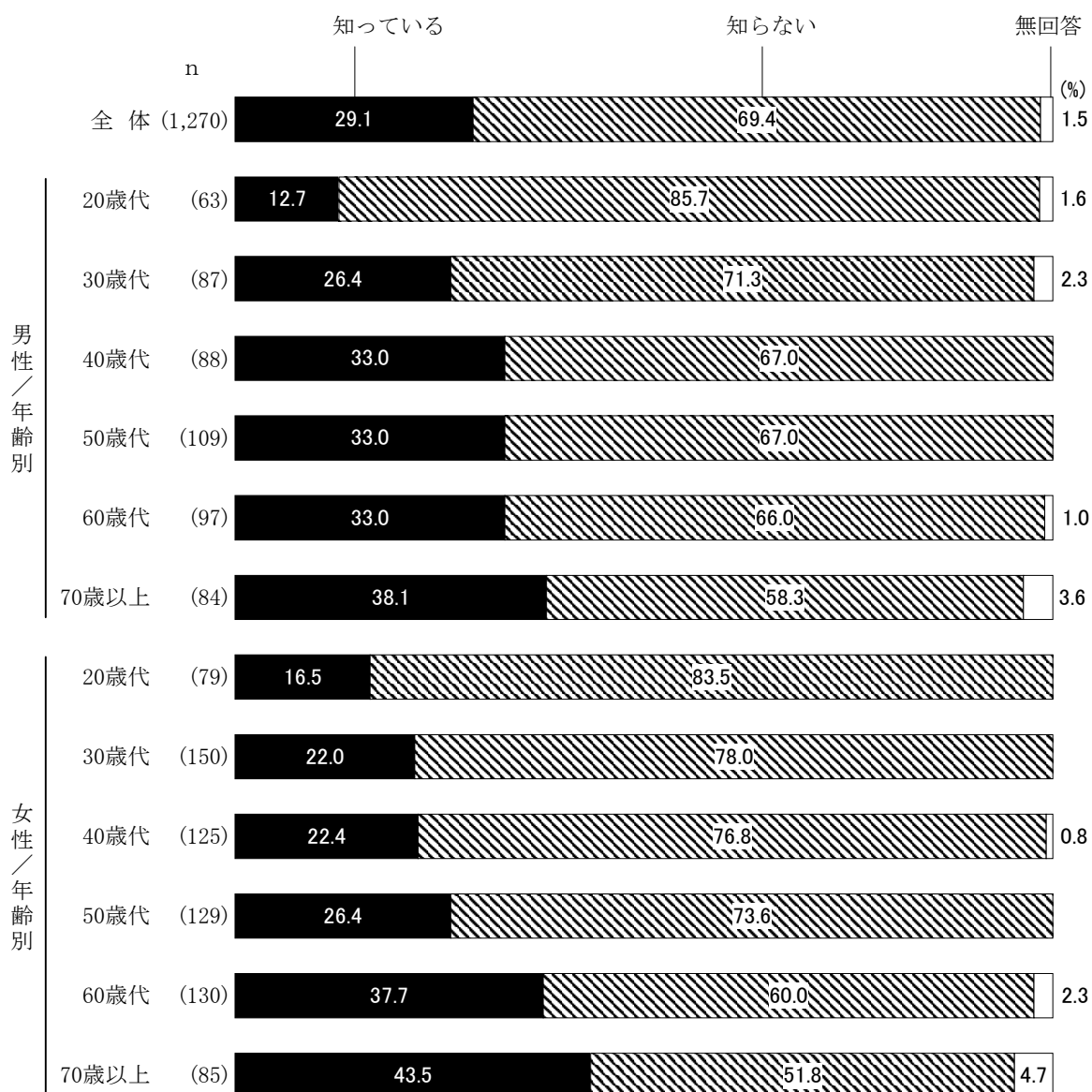
問 28 川崎市では、住宅用火災警報器を、新築住宅は平成 18 年 6 月 1 日から、すでにお住まいの住宅は平成 23 年 5 月 31 日までに、寝室、台所、階段に設置することが義務化されましたが知っていますか。(○は1つ)

図表 9-4 住宅用火災警報器の設置義務化の認知状況



住宅用火災警報器の設置義務化の認知状況は、「知っている」は 29.1%、「知らない」は 69.4%となっている。(図表 9-4)

図表 9－5 住宅用火災警報器の設置義務化の認知状況（性／年齢別）



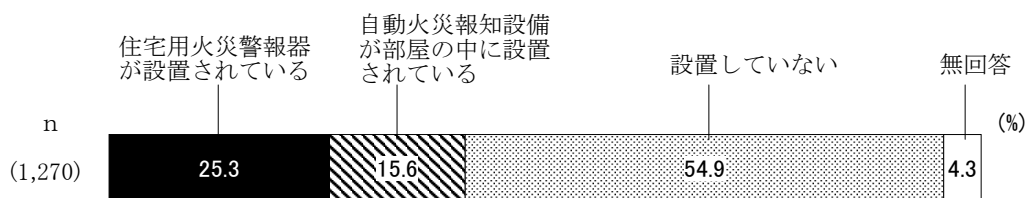
性／年齢別では、「知っている」は男女ともに20歳代が最も少ないが、年齢が高くなるにつれて多くなる傾向がみられる。一方、「知らない」は男女ともに20歳代で最も多く、8割を超えている。(図表9－5)

9-4 住宅用火災警報器または自動火災報知設備の設置状況

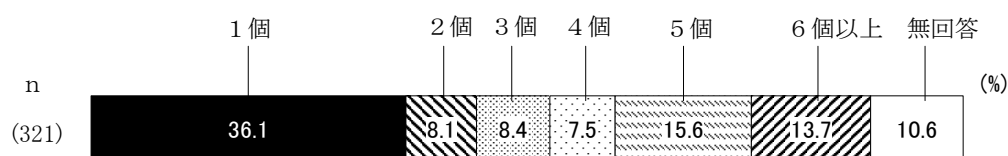
◎ 設置しているのはあわせて4割超

問 29 あなたがお住まいの住宅には、住宅用火災警報器または自動火災報知設備が設置されていますか。（○は1つ）

図表9-6 住宅用火災警報器または自動火災報知設備の設置状況



【住宅用火災警報器が設置されている個数】



住宅用火災警報器または自動火災報知設備の設置状況は、「住宅用火災警報器が設置されている」が25.3%、「自動火災報知設備が部屋の中に設置されている」が15.6%となっており、あわせて4割を超えている。一方、「設置していない」は54.9%となっている。

また、住宅用火災警報器が設置されている個数を聞いたところ、「1個」が36.1%、2個～4個が24.0%、5個以上が29.3%となっている。（図表9-6）

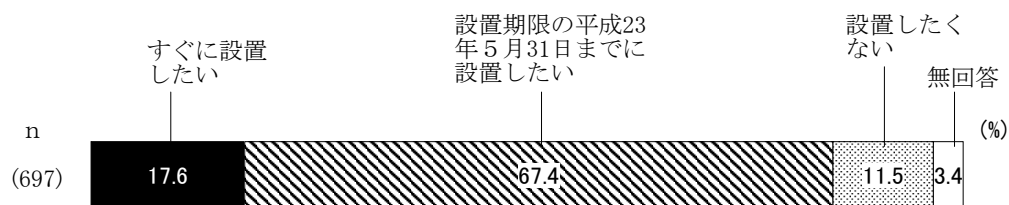
9-5 住宅用火災警報器の設置意向

◎ 「設置期限の平成23年5月31日までに設置したい」が67.4%

(問29で「設置していない」と答えた方にうかがいます。)

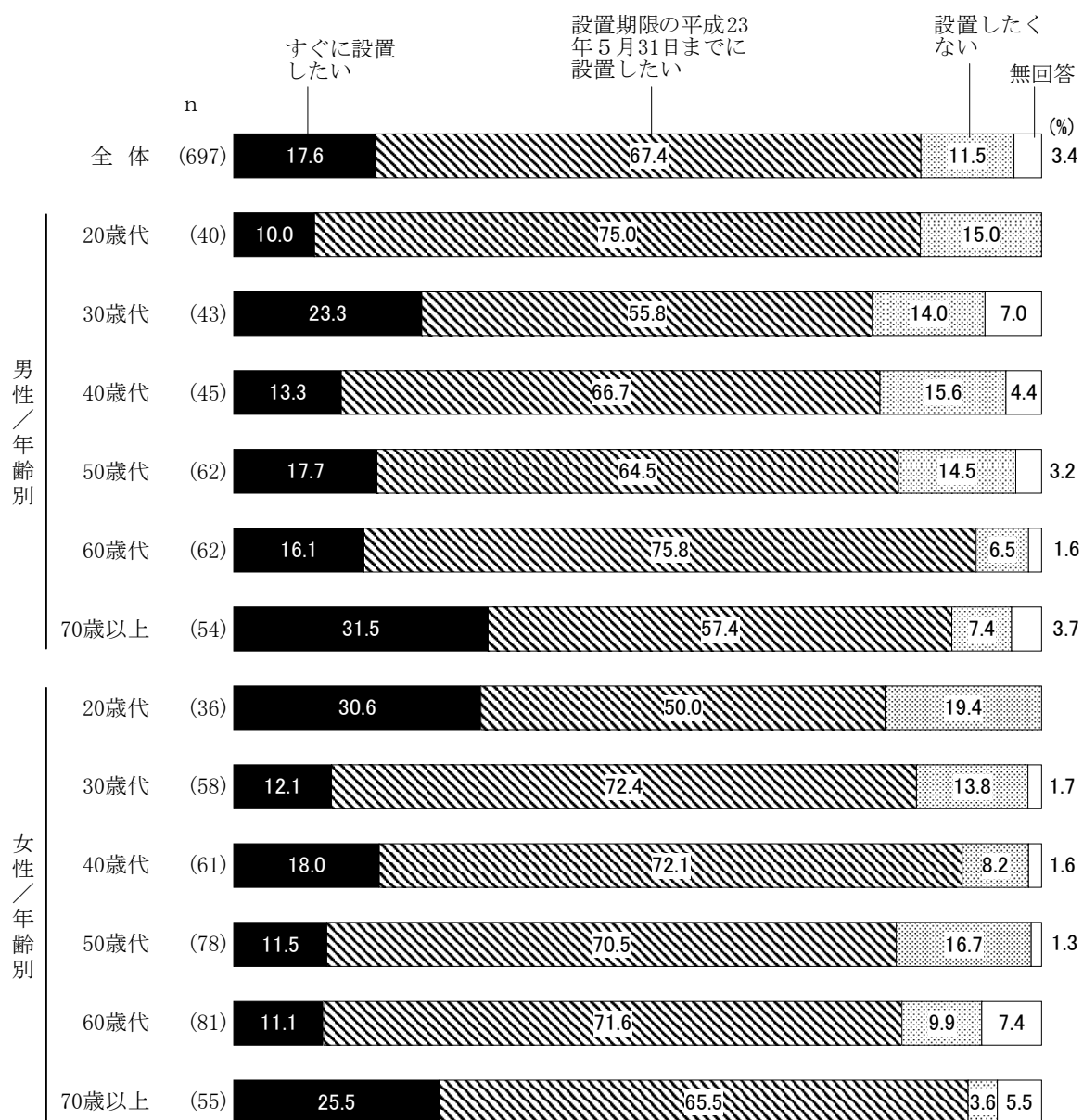
問29-(1) いつ設置したいと思いますか。(○は1つ)

図表9-7 住宅用火災警報器の設置意向



住宅用火災警報器の設置意向は、「すぐに設置したい」(17.6%)と「設置期限の平成23年5月31日までに設置したい」(67.4%)をあわせたく設置したい>は85.0%となっている。一方、「設置したくない」が11.5%となっている。(図表9-7)

図表9-8 住宅用火災警報器の設置意向（性／年齢別）



性／年齢別では、「すぐに設置したい」は男性の70歳以上、女性の20歳代で3割となっている。＜設置したい＞は男性の60歳代、女性の40歳代と70歳以上で9割を超えている。一方、「設置したくない」は女性の20歳代で2割弱となっている。（図表9-8）